

令和6年度 第3回 学校運営協議会

日時：令和7年2月12日(水) 15:00～16:00

場所：校長室

出席者：大東委員、宇佐美委員、石田委員、多賀委員

事務局：浦校長、辻教頭、中川事務長、小林首席、岩田首席

欠席者：田中委員、松宮委員

内容

1 開会

- ・会長挨拶
- ・校長挨拶
- ・出席者紹介

2 令和6年度学校経営計画について

資料1枚目、2枚目に関しては資料参照

本年度の取組内容及び自己評価について

①確かな学力の定着と学びの進化

- ・授業の満足度が85%以上を維持
- ・指導教諭を中心に教科を横断して相互の授業見学1人2回以上を行い、意見交換を行った。
- ・授業以外の学習時間が短い。
- ・各検定の受験者数が少ない。検定料が高いことも要因として考えられる。
- ・図書室、自習室の利用率が上がった。
- ・進路指導に対する肯定率は高い水準を維持している。

②豊かな人間性の涵養

- ・体育祭、文化祭の生徒の満足度は高い
- ・部活動加入率が年々下がってきている。
- ・遅刻者数が増加している（昨年比+30%）
- ・通用門の道路状況を改善した。
- ・教員対象の人権研修を年2回実施した。
- ・SC、SSWの活用を含めた組織運営について、再度確認を行い、教員が詳しく知ることができた。

③活力ある学校づくり

- ・カナダに姉妹校があるが停止している状態である。
- ・カナダより近い国の学校と提携を結びたい。
- ・ALTとのEnglish Caféを昼休みに毎週1回実施している
- ・ホームページ+αの広報活動を行いたい。（生徒自治会と連携）
- ・説明会の備品を購入した（バナーや椅子のカバーなど）
→スタイリッシュになり、教員の負担減（準備）につながった。
- ・学校説明会の日程を早める予定（9月、11月）
- ・学校のチラシを刷新した。
- ・『教育活動に関する教員の話し合う機会』の肯定的回答の割合が低い。
- ・『いじめ対応』の肯定的回答の割合が上がった。
- ・生徒指導部と保健部を組み合わせ（案）生活指導部として組織運営することを考えている。

3 令和6年度進路の進捗状況について

資料2 参照

- ・安易な理由や、大学見学や説明会に参加しないで進路を決める生徒がいる。
- ・早い段階からの進路指導が必要である。

4 学校説明会チラシについて

チラシを参照

5 協議（敬称略）

①本校のアピールポイントについて

（大東委員）チラシが見やすくなった。QRコードで申し込みもできて、今時の中学生に対応できている。なぜ竹がモチーフなのか

（岩田首席）校内に大きな竹林があるため。校歌にも入っている。

（大東委員）それを中学生は知っているのか。他にはどのような持ち味があるのか。

（岩田首席）おそらく知らない。本校の持ち味は弓道部と食堂があるところ、写真は生徒自治会の生徒にお願いした。

（校長）弓道部のクラウドファンディングを続けていく。

弓道を専門としている先生が赴任した。来年度以降も熱心に取り組んでいきたいと意気込んでいる。

食堂が第4ブロックの学校では特に減ってきている。先日、韓国フェアを3日間実施した。子どもたちは喜んでいて。食堂の方も久しぶりにこれだけ忙しかったとすごく喜んでくださった。定期的なフェア、企画を行い、生徒の充実度を上げていきたい。同窓会にお願いして、食堂のリニューアル(夏に机の入れ替え等)を考えている。最終的にはエアコンをつけたい。

地域連携やPTA、自治会と協力しながら生徒の喜ぶイベントを企画していく。

（石田委員）食堂の企画をHPに載せてもらえると多くの人が見ることができる。他の学校がやっていないイベントをすることは学校のアピールにつながる。

（校長）来年度の文化祭では食堂の利益を損なわないようにして、キッチンカーを呼びたい。

（多賀委員）韓国フェアが大混雑だった。3年生で最後に食堂を楽しみきれなかった生徒もいた。その改善案を考えてほしい。

（校長）本来は3年生のために行った企画だった。今回の反省を活かして、今後の課題としたい。

（大東委員）3年生最後の食堂と韓国フェアの日程はたまたまかぶったのか

（校長）事前に案内はしたがあまり効果なかった。学年で企画の日程を分けるなどの工夫をしたい。

②進路選択について

（宇佐美委員）チラシについて、2回の説明会両方に行けない生徒もいる。個別対応があることを伝えたほうがいいかもしれない。チラシに大きく書くと殺到しすぎるかもしれないが。進路の合格者について、高校生は進路について先生に相談しているのか。

（校長）相談する時期が遅く、意識も高まりにくい。大学に足を運んでもらう取り組み、大学側に本校に来てもらい、実際の授業をしてもらう機会をつくる。イメージが出来ていないので、少しずつ大学について知れる計画を立てていきたい。

（宇佐美委員）中学生も本人の意見ではなく、親や先生など周りの影響で決めることが多い。

高校生になったら自分で進路を考えることになるということを広めたほうがいいかもしれない。

授業を大事にしているということが数値に出ている。その発信が少しずつ伝わっていることも実感できた。中学校の先生の中にも「皐は授業に力を入れている」と認識している人がいる。

(小林首席) 授業見学を一貫して行うことができた。授業評価の水準の高さが広まっていることはうれしい。

③日頃の生活等について

(大東委員) 「生徒の参画」を目指す学校像のところに取り入れていってほしい。皐のアピールポイントの一つになりうる。

確かな定着の学びと進化について、授業時間以外の勉強時間に自習室の勉強時間は含まれているのか。

(校長) 含まれていない。

(大東委員) なぜ自習室の利用が増えて勉強時間が減ったのか。

(校長) アンケートの対象となっているのは家庭学習の時間だから。アンケートの取り方を考える必要があると考えている。

(大東委員) 探究の時間の取り組み方について詳しく教えていただきたい。

(校長) 探究の実施に詳しい先生がいる。3年計画で考えたいという話をしている。

(大東委員) 職業理解と進路選択の連携が大切になる。

遅刻回数について、複数回している生徒は学年が変わって増えたのか。

(校長) 学年にかかわらず、全体的に増えている。

(小林首席) 今まで元気な子が急に来られなくなるということもある。学年にもよるタイミングにもよる。

(大東委員) SCやSSWの相談回数が増えているので、子供たちの変化をどうやって相談につなげるか

(校長) そのために(案)生活指導部として組織運営を変えたいと考えている。単なる寝坊や怠惰などのほかの理由でも増えていることが問題。原因の究明に努めたい。

(大東委員) 大学でも生活支援の窓口で対応して各係に流している。そのような動きをしていくべきである。

進路選択について、AOを選ぶ生徒が少ない。アピールをする場なので、検定をもっと受けてもよいのではないだろうか。

(校長) それもまた本校の課題。指定校のほうが楽と考えている生徒も多い。大学の取捨選択については十分に情報を得てほしい。例えば、芸術が特色なので、そこでアピールする生徒がいた。そういう傾向を高めたい。

(大東委員) 生徒のアピールポイントを増やすためには部活動を推し進めるべきでは。

(校長) 部活動等を通して生徒に成功体験を積んでほしい。行事もその一つ。また参画のメニューをつくり、成功体験をさせることで生徒はのびる。

以上